

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表：令和 3年 2月 28日

事業所名 運動療育スクールjump

保護者等数(児童数) 60

回収数 38

割合 63

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	29	6	0	3	充分といえば充分だが、高学年には物足りない。	戸外活動なども取り入れることで、対応していきたいと思います
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	30	1	0	7	先生がマスクをしない場合は、フェイスシールドやマウスシールドの活用してほしい。	基本的にマスクは着用していますが、検討しています
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	19	8	5	6	階段と道路までの距離が近いので少し心配。 2階にあるので車イス等は対応してないと思う。	階段の昇り降りの際はスタッフが付き添い、階段下にもスタッフを配置して対応しています
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	34	0	0	4		
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	37	0	0	1	毎週違う取り組みで工夫されていると思う。	今後も様々なレッスンを提供していきたいと思います
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	8	3	6	21		
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	37	0	0	1	毎回メールで様子を教えてもらい、子どもの様子がわかり安心している。	今後もより安心していただけるように、お伝えしていきます
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	37	0	0	1	メールで様子の報告があり、とても良いと思う。	今後も様子をお伝えし、共通理解していけるようにしていきます
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	28	4	3	3		
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	5	4	13	16		
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	27	3	0	8	苦情等の事案を経験したことがないのでわからないが、その時は知らせてほしい。	迅速かつ適切に対応できるようにしていきます
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	33	3	0	2		
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	21	5	0	12		
	14	個人情報に十分注意しているか	33	1	0	4	書類を手渡す際に、周りに丸見えだった。デリケートな書類という意識を改めて認識してほしい	個人情報の取扱いについて改めて周知し、定期的に研修を行って参ります
非常時 等の 対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	22	5	0	11		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	24	1	0	13		
満足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	37	1	0	0	利用前日に「明日はjump」と教えてくれて楽しそう。	今後も様々な活動を取り入れ、楽しい運動を行っていききたいと思います
	18	事業所の支援に満足しているか	37	1	0	0	jumpで練習したこともあり、運動に自信を持って取り組むことができるようになった。	楽しく運動しながらソーシャルスキルを身につけていけるよう、今後も精進してまいります

*1

放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発

*2

事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表：令和 3年 2月 28日

事業所名 運動療育スクールjump

保護者等数(児童数) 5名

回収数 2

割合 4

	チェック項目	はい	どちらとも いえ	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	2					
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	2					
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	2				参加する子どもの名前や当日する内容をわかりやすく表示してあるので、とても理解しやすいと思う	今後も、視覚支援なども用いながら、よりわかりやすい環境構成を行ってまいります
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	2					
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、 <u>児童発達支援計画</u> *2が作成されているか	2					
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	2					
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	2					
	8 <u>活動プログラム</u> *3が固定化しないよう工夫されているか	2					
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか					2 療育を始めたばかりの為、行われているかわからない	今後、検討していきます
保護者 への 説明	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	2					
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	2					
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか	1				1 日常で取り入れたらよい遊びなどを教えてもらえたら、もっと日常的にトレーニング・療育ができるかなと思う	利用後の報告時に、具体的な活動の提案もより詳しく行っていきます
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	2					
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	2					
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか					2 コロナで難しい部分もあるかと思うが、あればぜひ参加したい	感染症対策等も含めて、検討していきます

等	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	2				
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	2				
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	1			1	
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	1			1	
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。				2	療育を始めたばかりの為、行われているかわからない ・契約時の説明を、より詳しく行っていきます ・訓練の実施後の報告の方法を検討していきます
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか				2	
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	2				
	23	事業所の支援に満足しているか	2				

*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

*2

児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援センター

*3

事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平

*4

保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目標としている。